



隨 想

後 藤 以 紀

「君子危きに近よらず」という諺があるかとおもうと「虎穴に入らずんば虎兒をえず」というのがある。「果報は寝てまで」に對しては「かせぐに追いつく貧乏なし」「弘法は筆を選ばず」には「名匠は道具を選ぶ」「二兎を追う者は一兎もえず」には「一石二鳥」等々。果していづれが眞理か。これらはそれぞれ半面の眞理を傳えたのであろう。

甲論乙駁の學説の推移にかぎらずすべて萬有流轉の様相は「あるものに對しては、これに對立するものが現われて、やがて別の形に統一されて變化してゆく」と説くのは唯物辯證法的見方である。

しかし電氣回路では、電流が減衰振動的経過をたどるとは限らず、指數函数的に變化する場合もあり。兩者の中間の状態もある。これは無駄のない變化の仕方である。一般の事象でも漸進的變化をなす場合が確かに存在する。これは目立たないから見逃されるのかもしれない。また、故意に振動的變化をなす場合のみを變化のうちにに入れて、違ふ場合を捨てるのでは不公平となる。

か様に考えてゆくと、なかなか纏ての事象に通ずる根本原理というものは見出しがたいことになる。唯物辯證法的理論といえどもやはり、半面の眞理なるをまぬかれまい。廣い範圍に通ずる原理を一口で正しくいおうとするとかく内容が漠然としたものになりやすい。數學でも廣い範圍に適用される定理では具體的な結果がえられぬ傾向がある。具體的な結果は、條件の厳しい狭い範圍の定理で表わされる。狭い範圍に成立する原理をしいて廣い範圍に適用すると無理を生ずることがあるのは當然である。

われわれの精神現象についても、現在の物理學の法則またはそれを少

し進めたぐらゐの法則の組み合わせで果して説明できるかどうかは甚だ疑わしい。しかるに普通精神現象や物理現象に輪をかけたような不思議な現象として心靈現象がある。これは心理的心靈現象と物理的心靈現象とに大別される。何？ 生産研究と心靈現象と何の關係があるかつて？ まあ、そう急かずに聞いていただきたい。もつとも基礎的な原子核物理がもつとも尖端的な應用に直通する世の中である。心靈現象とて決して馬鹿にはできないのである。

物理的心靈現象とは、通常、精神統一状態にある靈媒と稱する特殊能力者の身體のエネルギーおよび物質を利用して、手や器物を使用しないで机等を動かしたり高いところへ持上げたり種々の仕事をする現象がこれに屬する。かういふいかにも物理法則が根底から覆されたか、しからずんば、觀察者が奇術に欺かれているかと思われるであらう。しかし赤灯、薄白光または閃光による寫眞等によつてみると、物を動かすのは、特殊な支持物質が靈媒の身體からでて物體を支えており、軽い物は直接支え、重い物は一度床に着いてから上方に向つて物體を支えている。その支持物體は暗いところでみると往々かすかに蒼白く光つて見えることがあるが、これは標識用の夜光塗料の光が反射しているのかもしれない。夜光塗料の前を通過すると黒く不透明に見えるが、薄白光の前を通過すると半透明に見える。赤灯下ではしばしば白味または稍黄色味を帯びていることもあり、全く見えない場合もある。形も色々で棒狀、帶狀の他しばしば手にした不定形をして物を支えることもある。特別な場合には人の顔や手足の形を現わすこともあり、變形は自由で長く伸ばさせると數米に達し、數回ねじることでも

きる。赤光でも永く照らすと次第に蒙朧として煙のごとく消え失せる。この奇妙な支持物質はエクトプラズムと稱せられドイツではこれを採取して分析したと報ぜられているが日本では未着手である。物理的心靈現象の謎をとくにはこれの解明が第一であつて、その他の部分では矢張通常の互視的物理法則に従つていようである。唯注意すべき點は、現象が低級な場合には、靈媒の手が直接に物體を支えていることもあるので、たまたまこれを見付けてすべての現象を奇術だときめてしまうこともありうるが、とくに新しい現象には早合點は禁物で、冷靜に嚴密に公平に觀察せねば群盲象を評するの愚に陥ることになる。反對に低級な憑靈現象を見てただちに偉い神様の御降臨だとありがたがるのもまた警戒すべき點である。

この憑靈現象すなわち俗にいう狐つき等の現象の大部分や夢で將來を豫知したり、近親の不幸をしつたりまたは靈媒の透視、豫言等は心理的心靈現象と稱せられているが、これの迷信と正信との境界線は常識で考える以上に錯綜しており研究は物理的心靈現象以上に困難であるがこの境界線を部分的にでも確定することは不可能とは思われない。そして靈感や豫知等が實用されるにいたれば生産研究のみならず一般の研究を促進する重要な武器となるにちがいない。それを達成するには物理的心靈現象の機構の解明が第一であり、これを基盤として心理的方面にメスを入れるのが確實な方法と考える。それには測定技術として電氣技術の應用はもちろん、物理學、化學、生物學、醫學、心理學の諸權威が胸襟を開いて虚心坦懐に協力されんことを願う次第である。

☆ ☆ ☆